

張力均衡とHEIGHT制御

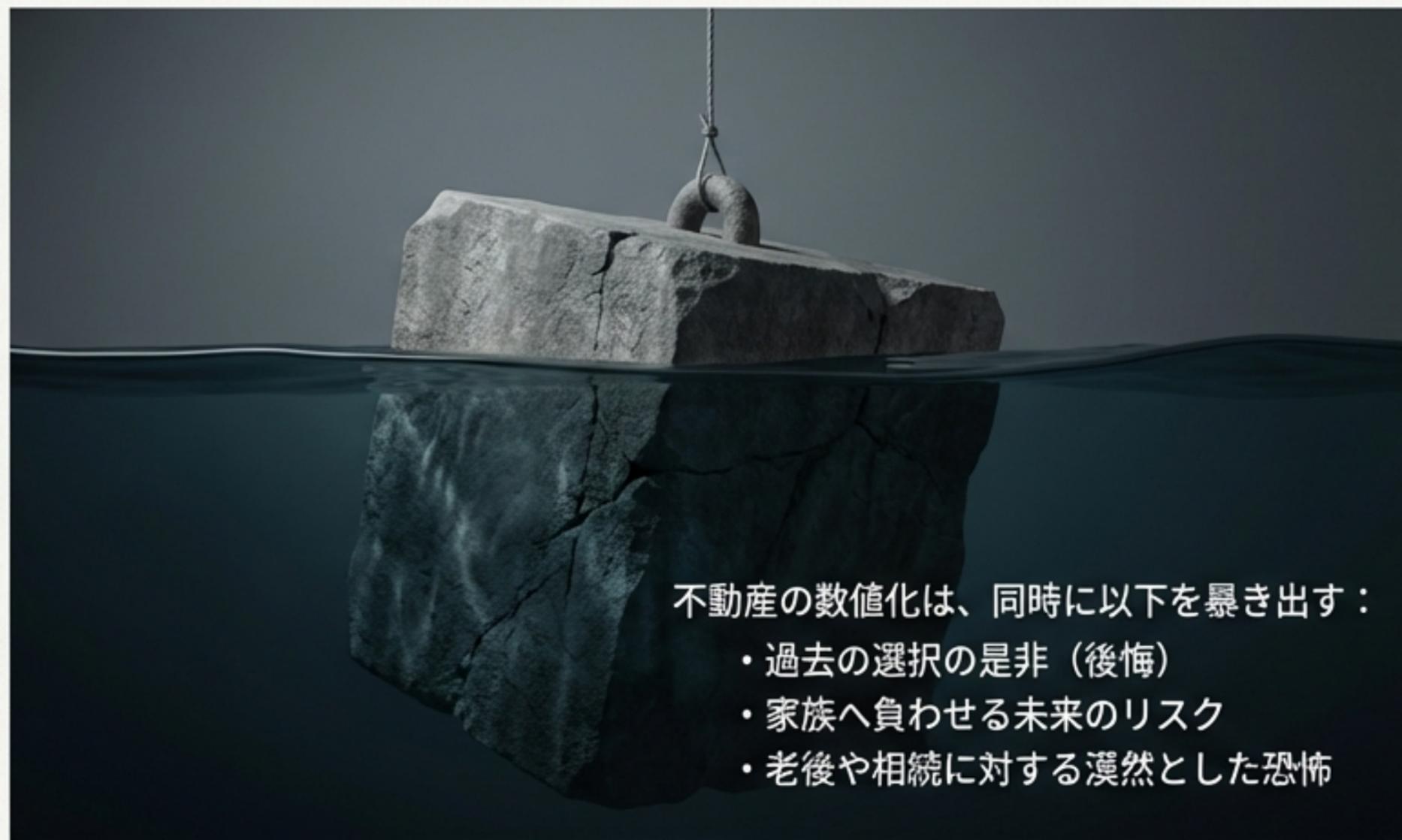
透明化が必ず生む摩擦を、循環の推進力に変換する — 不動産市場OS Vol.2 【理論編】

中川マスター / master.ricette.jp

不動産の透明化は「便利」だけでは突破できない壁に衝突する



- ワンクリックで価格がわかる
- 面倒な手続きを簡単に
- 比較ができて便利



不動産の数値化は、同時に以下を暴き出す：

- 過去の選択の是非（後悔）
- 家族へ負わせる未来のリスク
- 老後や相続に対する漠然とした恐怖

資産の可視化は「不便だから見えなかった」のではない。
「見たくなかった」から見えないうまにされてきた。

摩擦のない市場は、誰かが静かに搾取されている市場である

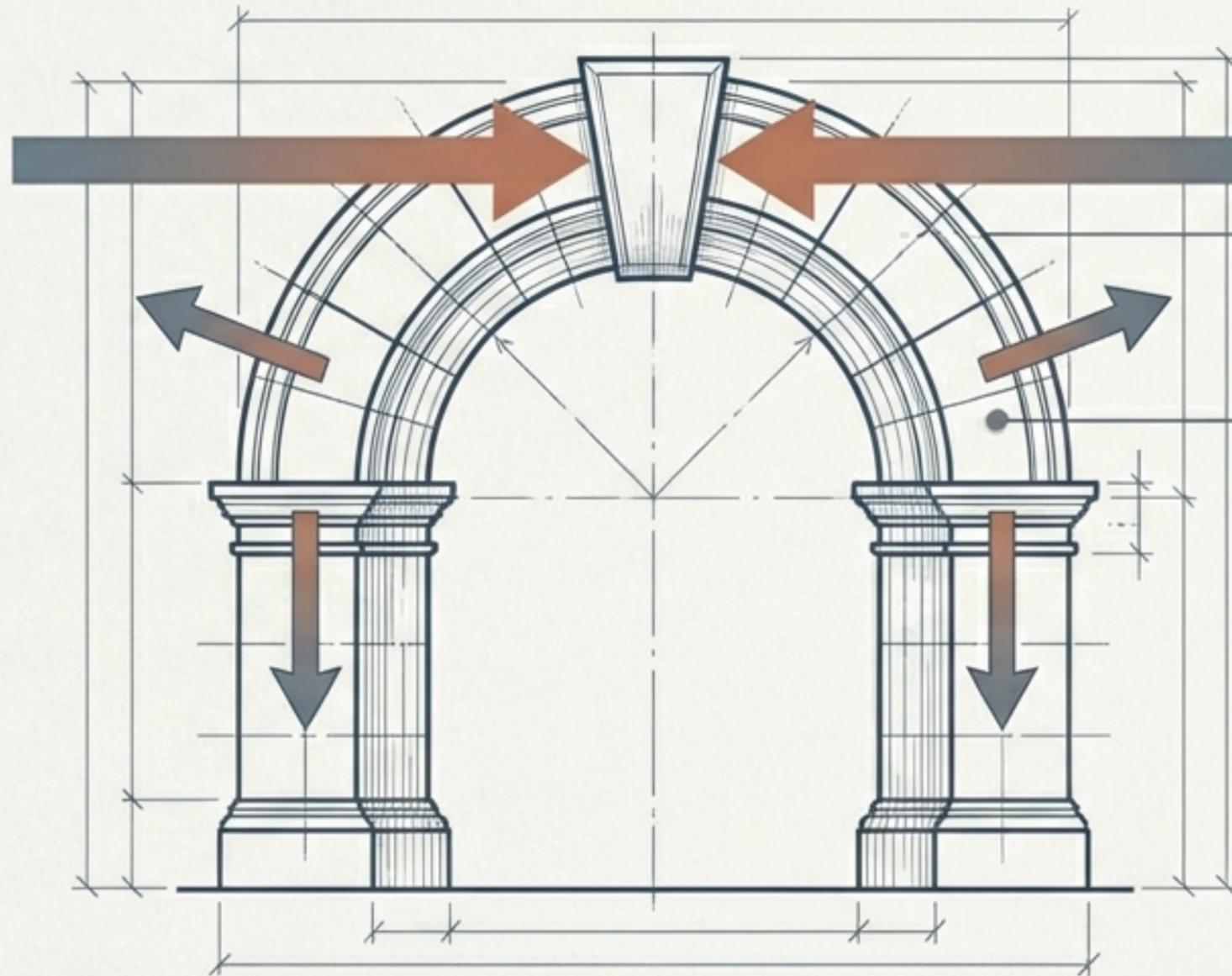
従来のテクノロジーは「摩擦（クレーム・反発・不満）」を排除すべきノイズとして扱ってきた。
しかし、市場OSの前提は正反対である。

「摩擦は、市場が
生きている証拠である。」

誰も本音を言わず、誰も責任を感じない
「静かな市場」こそが最も危険な状態を指す。

市場を「正しさ」ではなく、拮抗する「力学」として再定義する

第1原理：張力均衡（Tension Equilibrium）

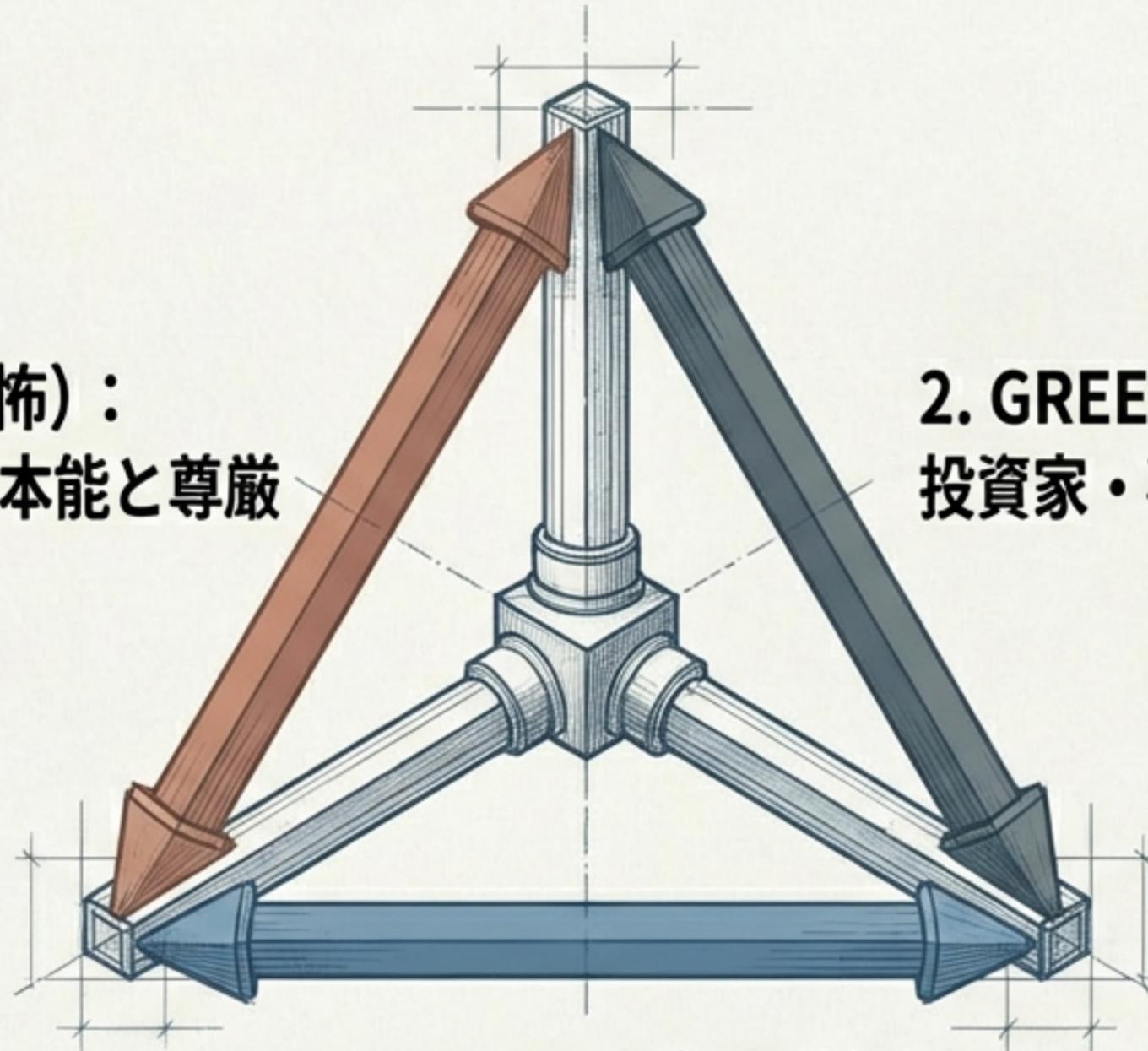


- 市場は一つの「正義」や「善意」だけでは支えられない。
- 対立する力が押し合い、引き合うことで初めて構造が成立する（アーチ構造）。
- 摩擦を消そうとするのではなく、力が拮抗した状態を「意図的に維持する」設計思想。

市場アーチを構成する「3つの不可分なベクトル」

1. FEAR (恐怖) :
所有者の防衛本能と尊厳

2. GREED (欲望) :
投資家・事業者の収益動機

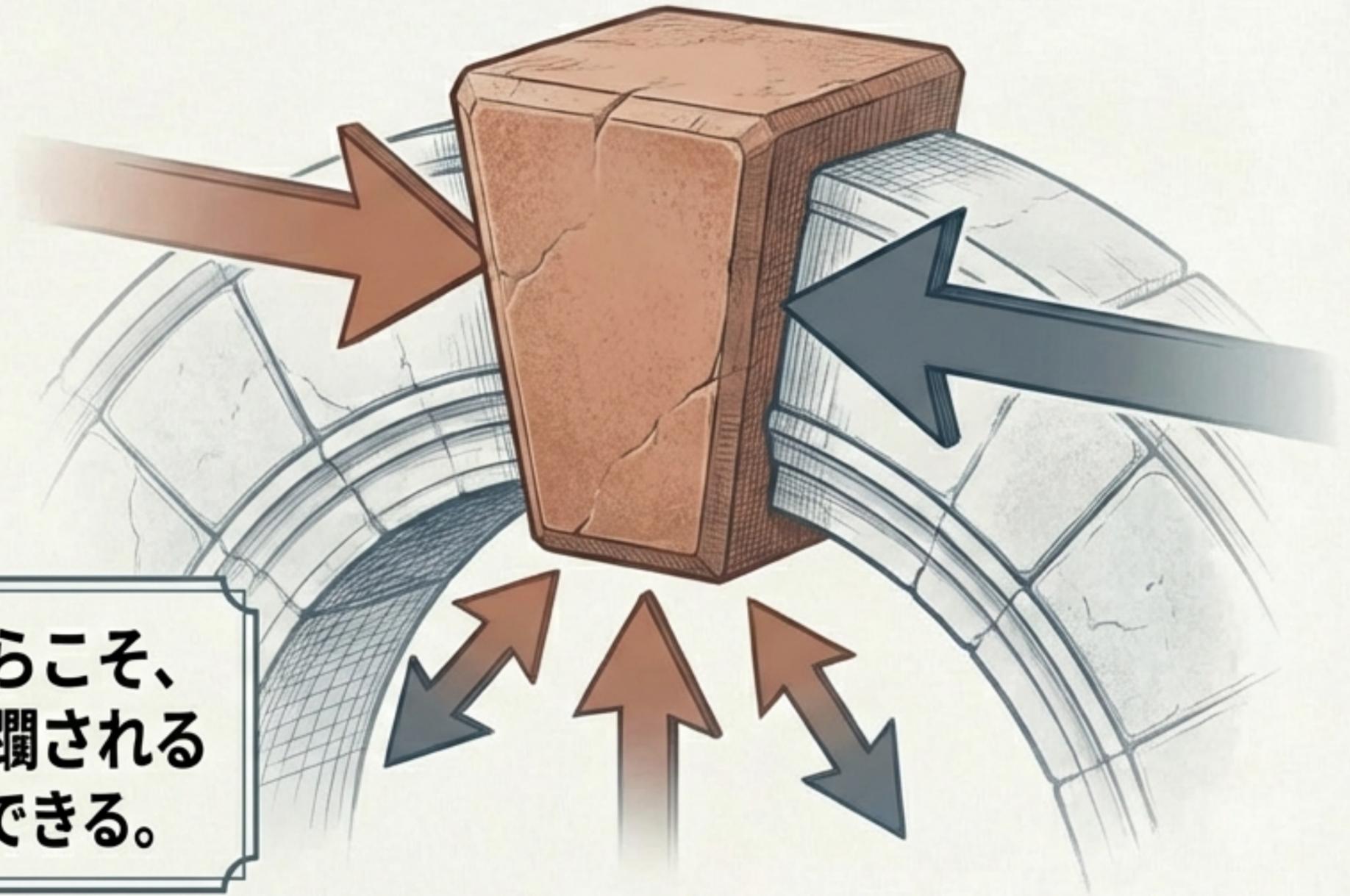


3. JUSTICE (正義/公共性) :
社会の持続可能性と防災座標

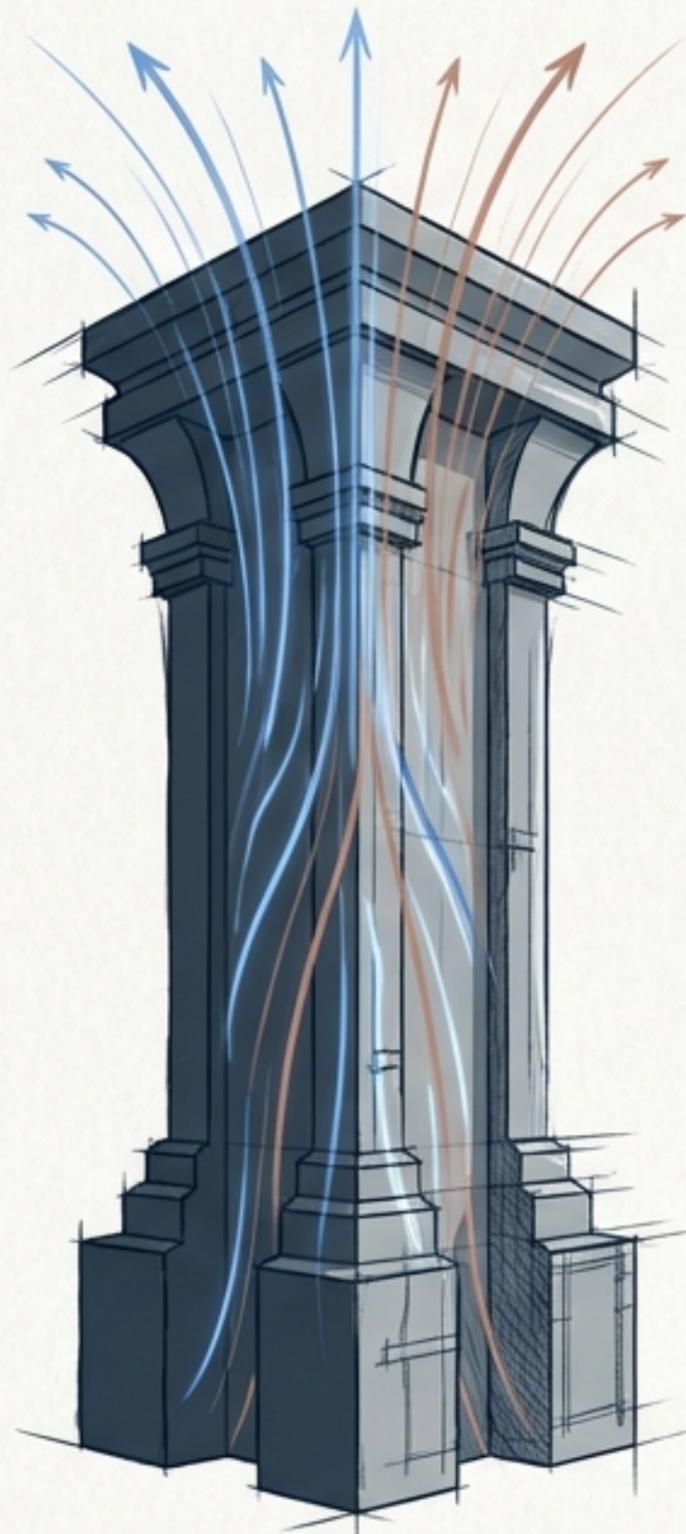
【Fear / 恐怖】市場の崩壊を防ぐ「要石（キーストーン）」

所有者が抱く変化への拒絶、
不安、防衛本能。
これらは市場のノイズではなく、
張力均衡を支える最重要の
「要石」である。

この恐怖（防衛ライン）があるからこそ、
市場は投資家や国家に無制限に蹂躪される
ことなく、個人の尊厳を保つことができる。



【Greed / 欲望】 と 【Justice / 公共性】

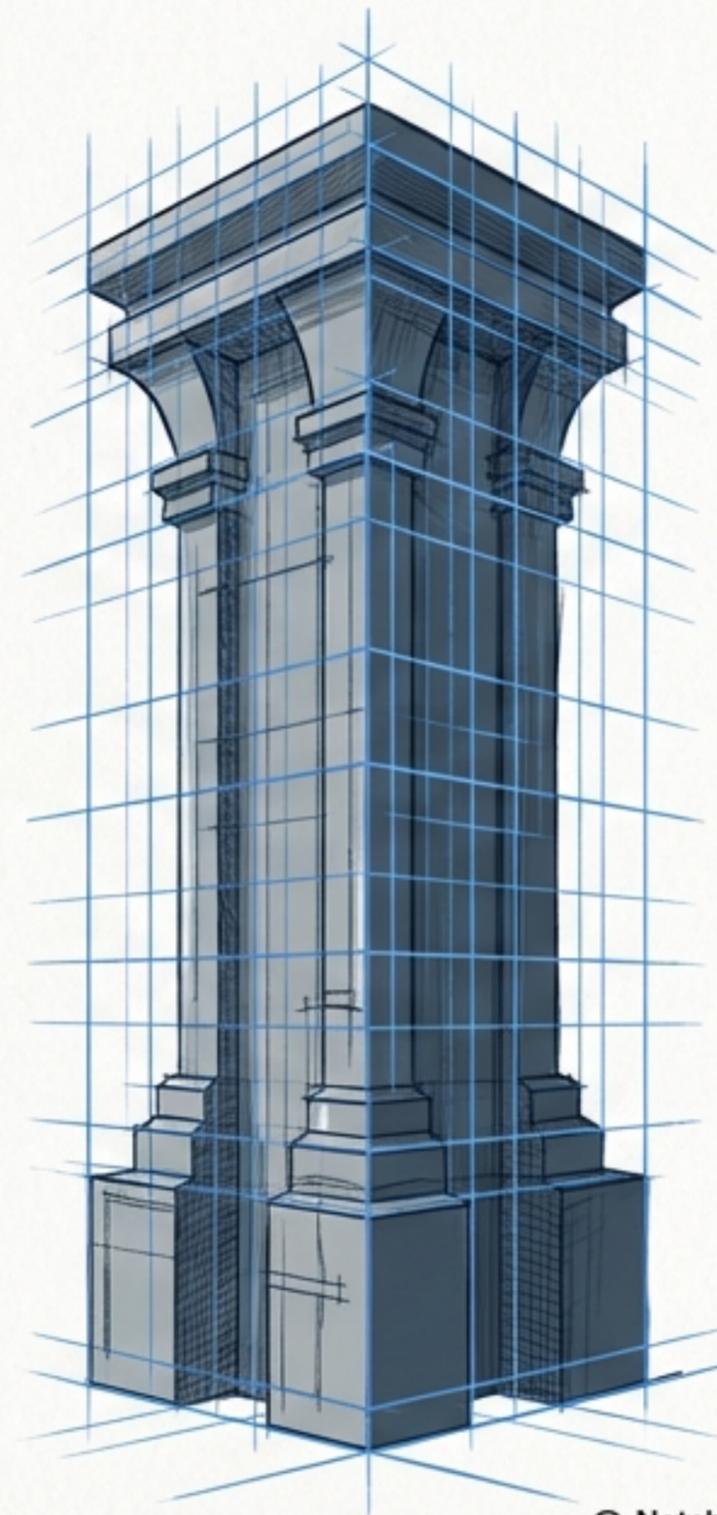


【Greed / 欲望】

- 市場を駆動する燃料。
- 投資家、事業者、購入希望者が求める「効率」と「利益」。これが無ければ循環は起きない。

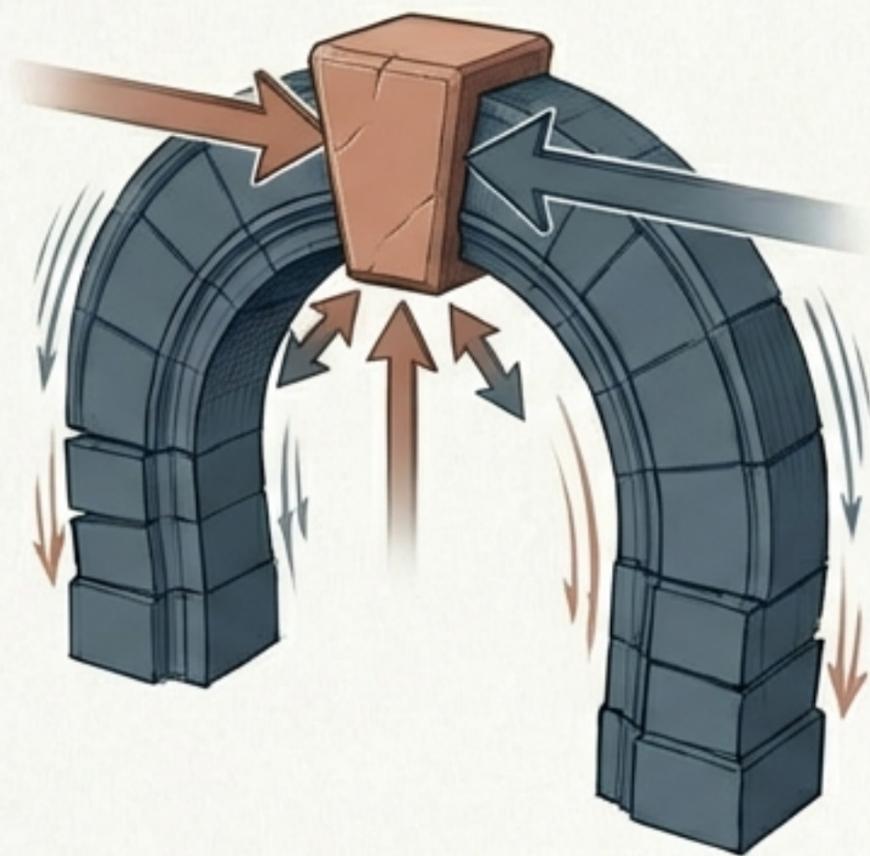
【Justice / 公共性】

- 市場の存在理由を社会に説明するための座標系。
- 防災、国土保全、インフラ維持など、個人を超えた上位目的。

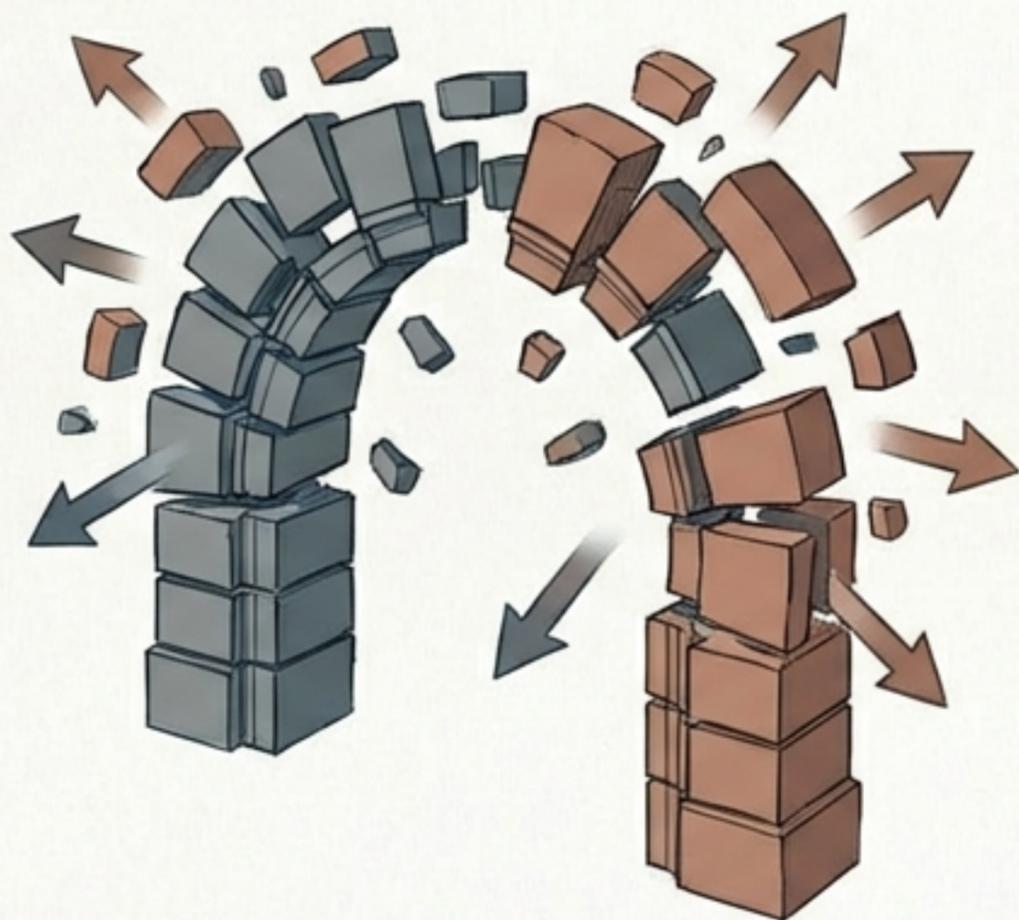


3つの力は「不可分」であり、単独の暴走は市場を破壊する

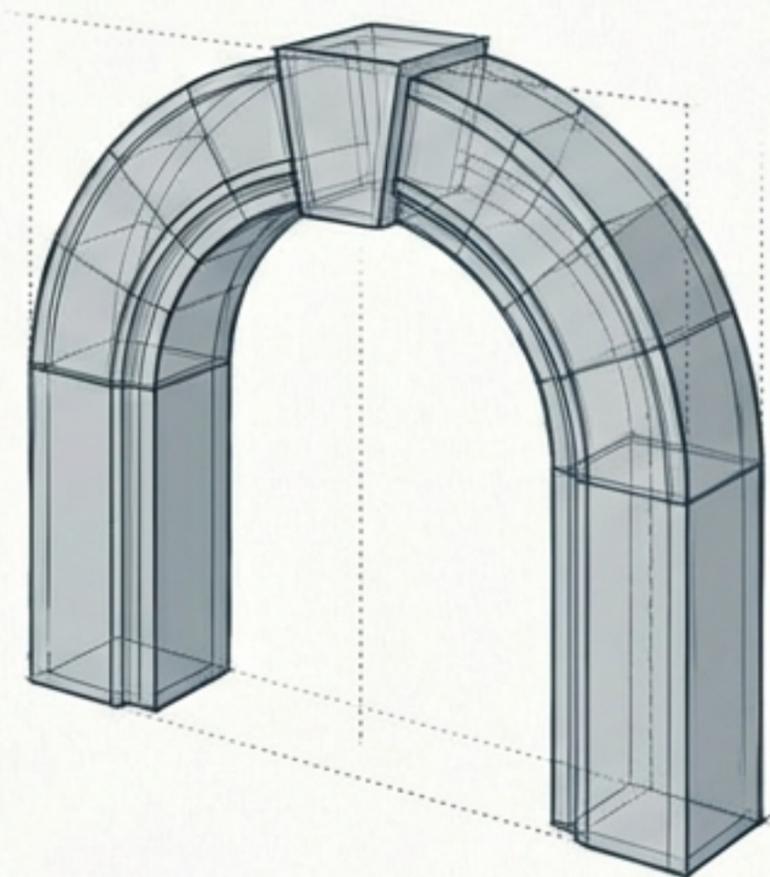
いずれか一つを「唯一の正義」として固定した瞬間、市場全体が歪む。



• 恐怖だけを刺激する設計
= 【脅迫装置 (Coercion)】



• 欲望だけを解放する設計
= 【略奪市場 (Predation)】

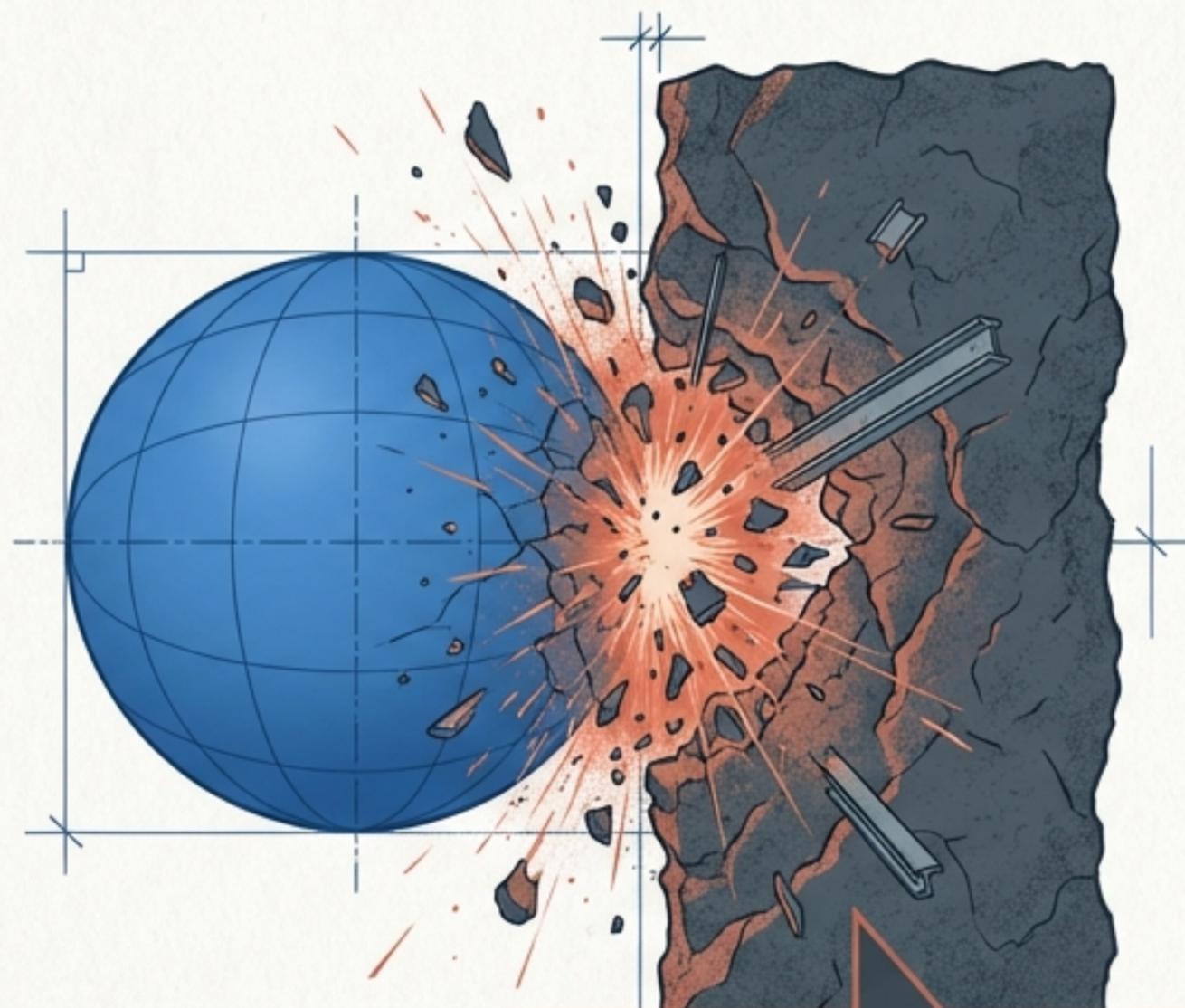


• 公共性だけを掲げる設計
= 【空虚な監視装置 (Surveillance)】

正しいことほど嫌われる：ヘイトの構造的必然性

3つのベクトル（恐怖・欲望・正義）
が同時に存在する限り、その交点
には必ず摩擦が生じる。

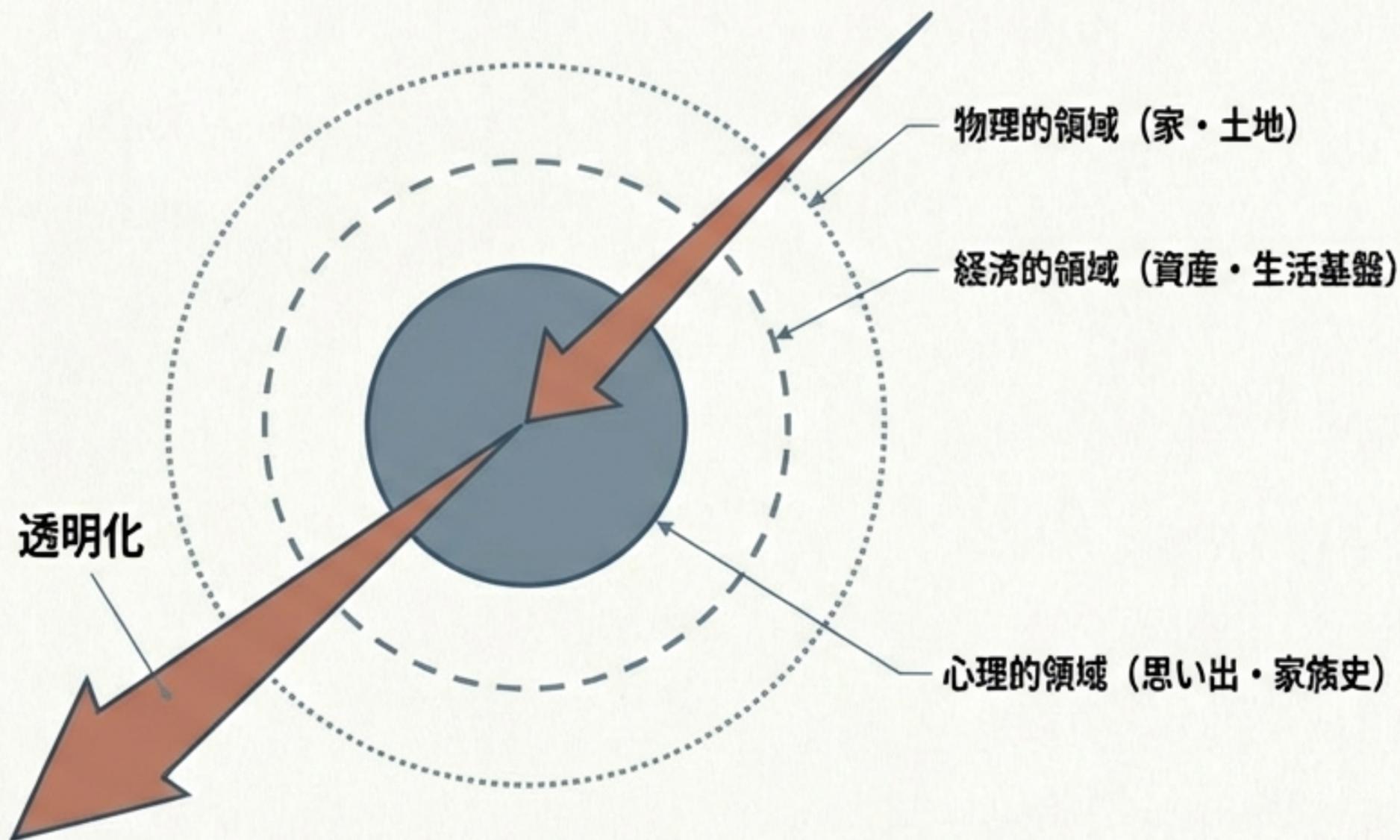
ヘイト（反発・怒り・拒絶）は、
異常事態や失敗ではない。



ヘイトが発生することこそ、張力均衡が
機能している何よりの証拠である。

ヘイトの正体は「情報の誤り」ではなく、「領域侵犯」である

人は、正しい情報や公益性であっても、「自分のテリトリーに土足で踏み込まれた」と感じた瞬間に強い防衛反応（怒り）を起こす。

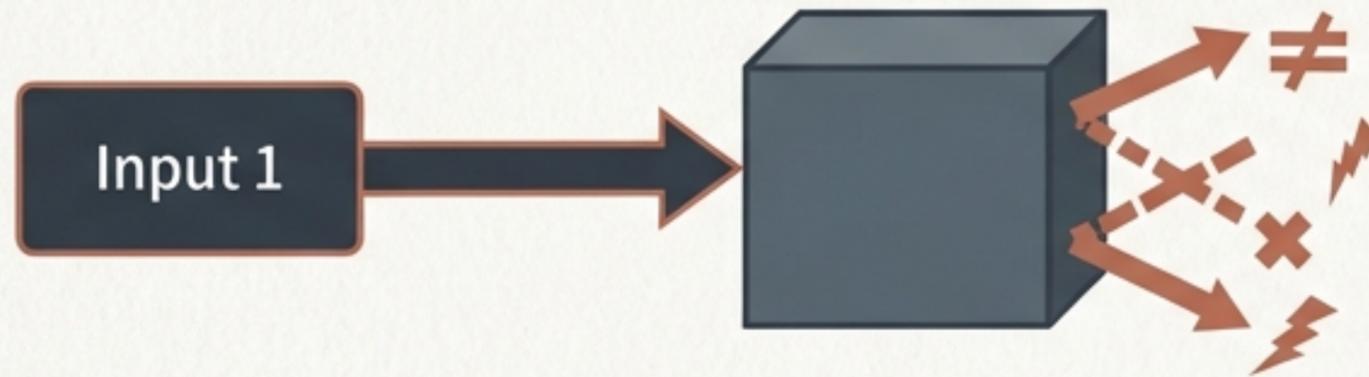


「合理的なのになぜ怒られるのか？」は誤解である。
領域侵犯は「内容」ではなく「距離」の問題なのだ。

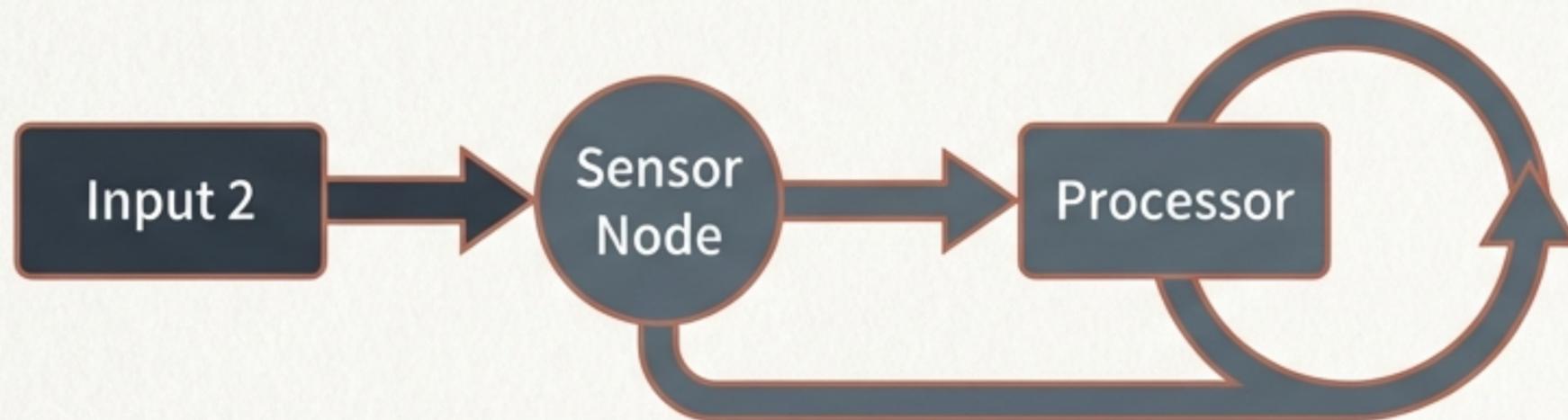
クレームを「仕様の欠陥検出装置」として読み替える

ヘイトを敵と見なし、論破したり抑え込んだりする設計は必ず破綻する。
張力均衡型OSは、ヘイトを設計にフィードバックする回路を持つ。

- ・旧パラダイム：クレーム = 面倒な感情的反応（ノイズ）



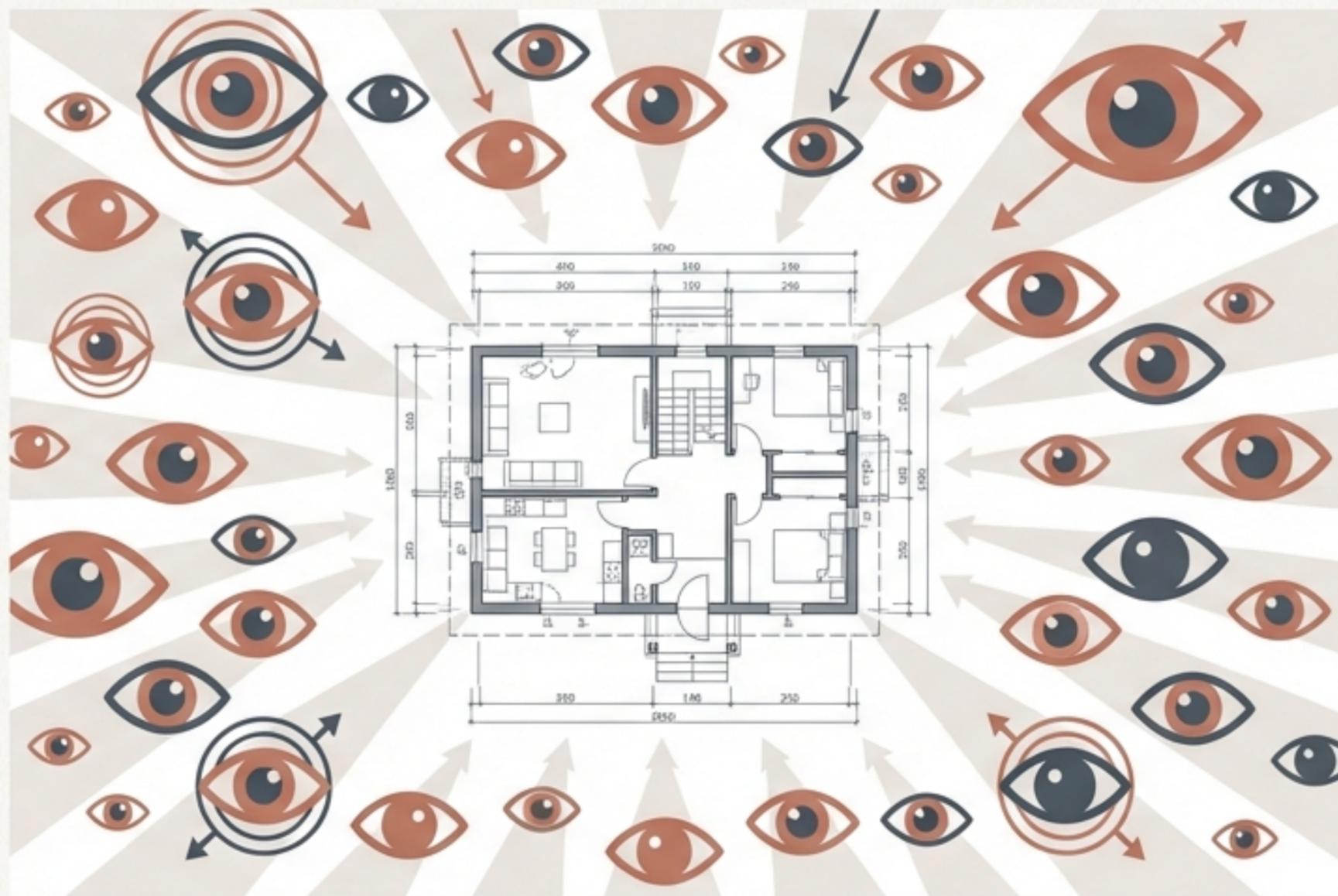
- ・新パラダイム：クレーム = 仕様の欠陥検出信号（センサー）



ヘイトが発生した地点は、張力均衡が「一時的に崩れている場所」を示す貴重な診断データである。

「完全公開＝自由閲覧」という致命的な誤謬

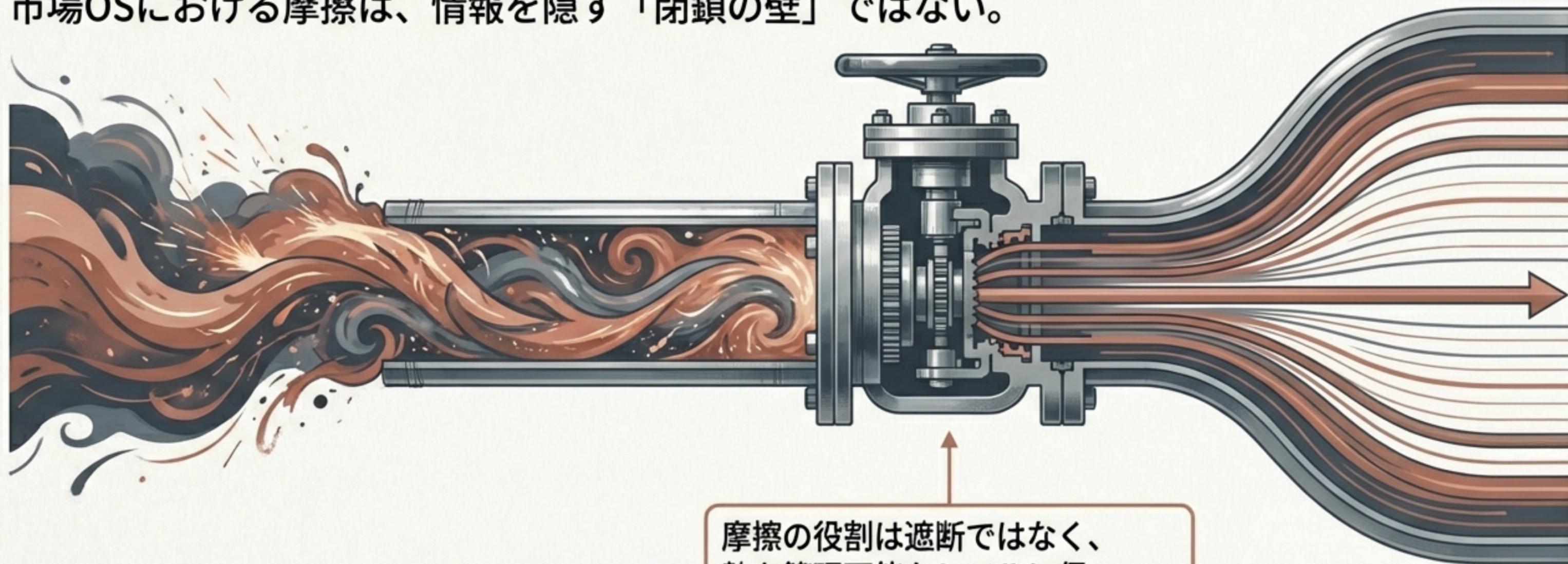
当事者性のない層（冷やかし・覗き見）
にまで情報を自由閲覧させる設計は、透
明化をただの「晒し」へと転落させる。
自由閲覧が成立した瞬間、透明化は
「保護」ではなく「攻撃」に誤認され、
摩擦熱は制御不能な炎上へと変わる。



自由閲覧は、透明化の**安全装置を破壊する。**

防御スタック：Ethical Shieldと「意図的な摩擦」

透明化が引き起こす摩擦熱を、破壊ではなく循環のエネルギーへ変換する「盾」。
市場OSにおける摩擦は、情報を隠す「閉鎖の壁」ではない。

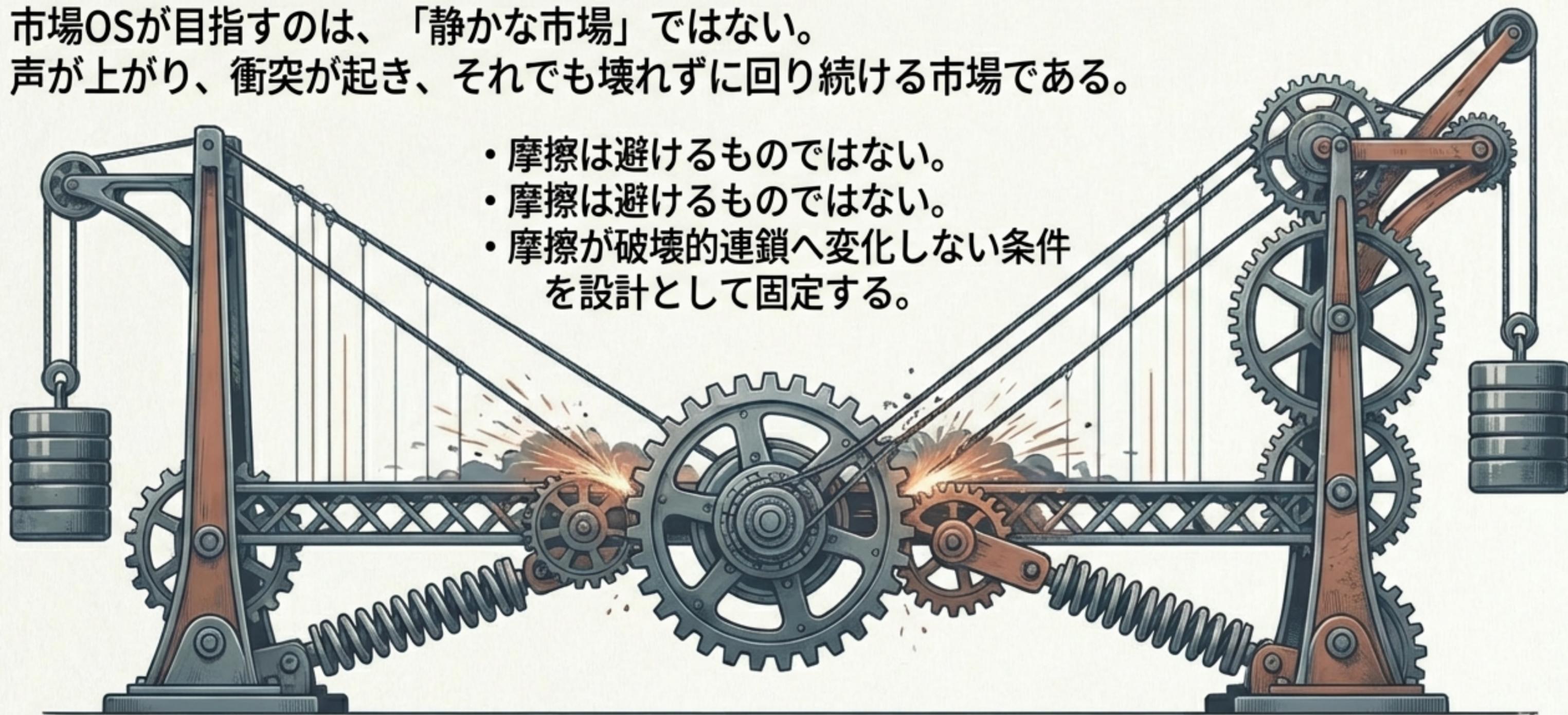


摩擦の役割は遮断ではなく、
熱を管理可能なレベルに保つ
「バルブ（流量制御）」である。

誰も怒らない市場は、誰も責任を持たない市場である

市場OSが目指すのは、「静かな市場」ではない。
声が上がリ、衝突が起き、それでも壊れずに回り続ける市場である。

- 摩擦は避けるものではない。
- 摩擦は避けるものではない。
- 摩擦が破壊的連鎖へ変化しない条件を設計として固定する。



摩擦を引き受けるとは、理念を語ることではない。
数字の前に立ち続けることである。

感覚や信念ではなく、構造と数値として示すことで、
張力均衡は初めて社会装置として稼働する。